

# 特集2



▲温かいカレーをどうぞ



▲入港した豊潮丸（とよしおまる）

# 阪神 広大救援

**現地に見た  
さまざま被災者の表情**  
教育学部体育教育四年 福田 義浩

一月二十三日から二十九日までの一週間、生物生産学部の実習船「豊潮丸」で、第一次隊として神戸市東灘区にある神戸商船大学へ向かいました。

この話を聞いたのが二十二日、今回の一次隊々長でもあった西村学生部長からでした。最初に話を聞いたとき、「えっ、神戸へ！本当に？ 行ってどんなことをするのだろう」といろいろなことを考えましたが、すぐに「ぜひ、行かせてください」と答えていました。

翌二十三日、大量の資材や飲料水、食料を載せた「豊潮丸」は、原田学長をはじめ多くの人の人たちに送られて神戸へと出発しました。神戸に到着するまでの十七時間、我々は船の中でミーティングを行い、チームワークよく能率的に活動できるように心をひとつにしたのでした。

神戸の街の光景は、テレビや新聞で見たものより、もっともつと悲慘で恐ろしいものでした。横倒しになった高速道路の橋脚や跡形もなく潰れた家々をみても、このたびの地震が一体どんなものだったのか私には想像できませんでした。神戸市内は一日中ヘリコプターが飛び回り、救急車のサイレンが鳴り止まず、こころの休まる暇もないほど騒々しいものでした。

我々の主な仕事は、水の運搬と昼食の炊き出しでした。炊き出しは体育館の近くに大釜のかまどを設置し、毎日温かいご飯とシチュー、カレー、豚汁などのスープを提供しました。体育館で避難生活をずっと送られて

いる被災者の方々は、表情から疲れ果てておられることが容易に分かりましたが、一人ひとりに「頑張ってください」と声をかけると、「湯気が出る食事はほんま久しぶりや、ありがとな」と明るい笑顔と感謝の言葉が返ってきました。

やはり義援金や物資を送るだけでなく、直接被災者の方々に声をかけ励ますことができたいのは、本当にうれしいことでした。仕事にも慣れ、余裕がでてくると、神戸商船大学の寮や近くの公園などにも自転車やトラックで食料を運びました。情報がうまく行き渡っていないためか、住宅街の小さな公園などでは「どうしてあつぱつぱり食料配るんや。わしら朝から何も食ってへんのやで！」と罵声を浴びせられたり、「わざわざ広島からおおきに。復旧したらいつでもおいでや」と名刺をいただいたりといろいろなことがありました。

また寮では、トラックが着くとすぐ寮の学生たちがテーブルを用意し、たいへん協力してくれました。神戸に来てさまざまな人々の様子を見て、このような苦しい状況になってこそ人と人の温かい協力が必要なんだ、と深く感じました。

今回のボランティア活動に参加して、自然の力の恐ろしさと人々の協力し合うところなど、私自身非常に多くのことを学ばせていただきました。被災者の方々に、一刻も早く自立した生活ができるようになってほしいと思います。（ふくだ・よしひろ）

**第一次医療救援隊に参加して**  
医学部附属病院救急部・集中治療部 岡林 清司

一月二十九日の朝、豊潮丸の甲板から眺めた呉の街は静かなゆつたりとした風景で、行

戸にやって来た。活動の主な内容は昼食作り。夜は船に戻り、夕飯を食べて眠る。翌朝また、被災者の方々のための昼食の用意を始める。私たちは、一度広島に帰れば住む家があり、何と自由な生活に戻ることができる。神戸にボランティアで来てさえも船上の快適な生活がある。そんな我々が、食事を配りながら「がんばってください」と被災者の方々に声をかけてゆく。

私たちが精いっぱい心を込めたつもりこの言葉は、被災者にとっては怒りをかう言葉以外の何物でもない。被災者の方々はすべてを失い、あたりようなない苛立ちを感じている。その精神状態の彼らにしてみれば、軽率な言葉にしか聞こえない。本当のボランティアとは、全てを失った同じ境遇の人の中から出てきて、被災者のために何とかして食料を確保しようと走り回っている人のことを言うのだ。

同じ痛みを持たない我々は、ボランティアとはいえないのだろうか。確かに、自ら学校側に志願して神戸に行くことが実現したということだけなのだ。我々の行動は、ボランティアというかつこいものではなかった。少なくとも、被災者にとっては我々をそうとは認めないだろう。

しかし、我々は今、自分たちのできる範囲で仕事をやってきた。そして、我々「善意の炊き出し隊」は、確かに大感謝されていたのである。今回自分のとった行動に対して、誇りを持ち、今後の人生の大きな糧としていきたい。

最後に、救援隊出陣に関して迅速な行動をとっていただきました学長以下、大学関係者の皆様にお礼をいいたいと思います。ありがとうございました。（きのした・かずたつ）

き交う車もなんとなくゆつくりと走っているように感じた。一月二十三日、阪神大震災の被災者救援のため総勢二十二名の広島大学ボランティアが同じ呉港を出発して、ちょうど一週間目に帰港した朝であった。医学部附属病院からは、私のほか浅原正講師（第二外科）を隊長に、反田凜子婦長（救急部）、面本眞壽恵婦長（東六病棟）の計四名が、第一次医療救援隊として加わった。

神戸の街は、一日中鳴り響くサイレンの音崩壊した道路を崩す削岩機の音と埃、何キロも続く渋滞の車とその合間を縫うように走るリュックを背負った自転車とバイク、まるで積み木を崩したようなビルと廃材の塊となつた家屋など、五感を通して入ってくるものが喧嘩としていた。

神戸市全体としての診療機能は、神戸西市民病院の病棟が倒壊し診療が不能になったのを始め、水不足、建物の損壊などで著しく低下しており、われわれが行った長田区の病院も同様に水不足のため、手術は不可能であった。また、病院の病床は満床状態で、少しでも状態の良い人は退院してもらって、新しく患者を受け入れるようにしている現状であった。

全国各地から十四機のヘリコプターが集結した神戸北区のヘリコプター基地では、被災当時病院に収容された患者が種々の合併症を生じ、手術ができないか、あるいは人工透析ができないといった理由で、県外の医療施設へ転送された時期もあった。

神戸市役所の一、二階で生活する七百名の被災者はプライバシーもなく、寒さ、睡眠不足、不衛生、余震への不安、将来への不安、ある人は多弁に、ある人は抑うつになっていた。症状を訴えたのは、避難民だけではない。一週間机に伏せて仮眠をとっているだけ

# 大震災 隊に参加して

今回の阪神大震災が、元氣印だった関西経済にいかん打撃を与えたか。家を失い、家族を失い、職場を失った被災者は、いかに立ち直ることが出来るか。建設の槌音が高まりつつある現在、ボランティア活動は正念場を迎える。

平家物語は、平重盛が没した治承三年（一一七九年）十一月七日の夜戌の刻（午後八時）頃、大地震があつて、相当長時間続いたと伝えられている。翌治承四年（一一八〇年）六月二日には、神戸福原に都が移された。約五か月半の遷都であった。あれから八一五年が経過した。

一月十七日、連休明けのまどろみの中、突然大地震がその睡眠を破った。この特集では、救援隊の活動報告を求め、また、本学関係の被害及び救援活動状況を明らかにした。

## 第一次隊の報告

### 見直した学生の奉仕精神

学生部長 西村 清 巳

一月二十三日から二十九日に派遣された広島大学阪神地震被災地一次救援隊に参加して、一番に見つけたものは、「学生の素直さと献身的な奉仕精神」だった。

大学キャンパスで遅刻やサボリ学生をよく見てきた自分には、珍しいものを見る思いがした。資材運搬、調理の準備と調理、食事の配給、後片づけを不慣れな環境の中で積極的に行う学生の姿は、仕事の厳しさと裏腹に、すがすがしさが感じられた。目的と方法を把握し、意欲的に活動するときには、若者は本当に生き生きとするものである。

さて、今回の広島大学の救援隊は、阪神地方の被災者にどんな支援ができたであろうか。その第一は、被災者の苦しみを共に苦しみ、苦しみの何分の一かを癒してあげることができたことであろうか。

食べることに困り、寝所に困り、寒さに耐え、水の使えない苦しさ、風呂にはいれない苦しさ、家族の温もりが焦がれる被災者に、私たちが支援の手を差し伸べることが出来るのは、できるだけおいしく温かいものを笑顔と励ましの言葉を添えて差しあげることであった。

私たちはそのことをよくわきまえて、精いっぱい努力をした。よく対話をし、苦しみの声を聞き、困っている人を探して、救援の手を差し伸べた。

第二は、自分の大学の復興に努力すると同時に、キャンパス内に避難されている被災者

の面倒を見ておられる神戸商船大学の教職員の方々にできるかぎりの支援をしてあげることであった。学生たちもび込みの仕事をし、しばし手伝った。食事の提供はもちろんのこと、水の支給や荷物の運搬を手伝った。神戸商船大学の教職員の方々も被災者と同じ立場でありながら、公務と自分の生活に苦しんでおられた。

大がかりな広島大学の救援活動がアツという間に実践に移された背景には、体育会の意欲と学長の決断、事務局の支援と生物生産学部の豊潮丸の出動があつた。これらががっちりスクラムを組んで、論より実践、不平より行動を優先させた結果である。

第一次救援隊は学生十六名（教育学部、工学部、生物生産学部、理学部、医師二名、看護婦二名、学生部二名の二十二名であった。昼間の救援活動が終われば豊潮丸に帰って食事をし、情報交換をして次の日の作戦を立てる毎日であった。豊潮丸は救援活動の基地として申し分ない生活ができた。船長はじめ乗組員の皆さんに大変お世話になった。こんな形で実習船を利用してもらえるとは夢にも思わないことであつた。みんなすばらしい仲間であつた。私たちが行動隊をバックで支えてくださった皆さまに、心から拍手を送りたい。（一次隊々長

**炊き出し隊に加わって**  
工学部第二類（電気系）三年 木下 一 達

ボランティアとは、自ら志願して社会事業に参加する人、正義に基づき、勇気、というかつこい意味づけがされている。

私たちは、広島大学救援隊第一陣として神戸

の市職員、われわれに説明をするたびに涙する病院長、七年間毎日開けていた金庫の番号が分からなくなった事務の人、三人の家族を失いながらレントゲンをとっていた技師等々、そこで働く人たちは、なにがしかの病をもっていた。

わが国にボランティアは育たないと言った人もいる。しかし、神戸の街には、居ても立ってもいられなかった人たちがたくさんいた。病院の中には多くのボランティア看護婦の姿があり、救護所には、医院を閉めて駆けつけ

て来た開業医の姿があった。多くの学生や市民が荷物の運搬や炊き出しにあたっていた。今回の広島大学ボランティアも、学生からの強い申し出によると聞いた。阪神大震災により多くの市民が犠牲になり、街も瓦礫の山となっていたが、これを復興させるのは、こうしたボランティアの人たちとそこで生活を続けていかなければならない人たちの、人と人とのつながり以外にないと感じたのは、ひとり私だけではないと思う。

（おかげやし・きよし）  
●一月二十三日  
広島大学所属 豊潮丸(三三〇ト)にて呉港発  
午後5時  
●一月二十四日  
神戸商船大学(東灘区)の港着  
午前10時 神戸大学へ行き、情報収集を行う  
午後2時 看護婦二名は吉田アインテント病院で救急活動を行う  
午後4時 医師二名は神戸市衛生局地域医療課を訪問し、地域の医療状況の把握と、明日以降の活動場所を決定する  
（徒歩にて神戸商船大学に戻るが、二時間半かかる）  
●一月二十五日  
神戸朝日病院(長田区)にて救急外来と一般外来を受け持つ(救急患者五名、外来患者二十一名)  
午後4時 (自転車で神戸商船大学を往復するが、片道一時間半かかる)  
●一月二十六日  
神戸市役所の一、二階ロビーに避難する約七百名の避難民への医療救急活動を行う(含夜間)一六〇名の診療  
●一月二十七日  
昼間はヘリコプターによる患者搬送に同乗する(五名の病院間搬送)  
午後3時 (自転車で神戸商船大学を往復する)  
●一月二十八日  
午後1時 神戸商船大学を出港  
●一月二十九日  
午前9時 呉港着

### 第一次救援隊

#### 豊潮丸航海報告

郷 秋雄

一月二十三日  
救援物資を積み込んだ後、救援隊二十二名が乗船した。昼過ぎ、呉海上保安部・警備救難課に赴き、神戸港に関する最新情報を手に入れた。十六時に学長出席のもと出発式を行い、十六時十五分、呉港を出港した。出港後、船内生活上の諸注意事項を施し、火災及び遭難訓練を行った。倉橋島南を回り広島湾から安芸灘へと進んだ。日没後に来島海峡を抜け、燧灘に入り、備後灘へと東進した。午前中一時雨が落ちたが、資材積み込み時には雨も上がり、出港後は曇りから晴れとなった。西高東低の冬型の気圧配置となつていて、西から北西の風毎秒八〜十、海上は白波立つてきた。次第に気温も下がり、後半には十度を割つた。幸い追い風なので船体の動揺は少なく、全員元気で資材の損傷もない。  
一月二十四日  
深夜、備後灘に入り高松市沖を航過した。備後灘から播磨灘に入り、七時二十一分、明石市南沖に達し、日の出直後に明石海峡を

通過した。淡路島北端の各地で、シートを張つた青い屋根が見えた。明石海峡を通過後、神戸市街を左手に見ながら沿岸沿いに大阪湾を東に進んだ。神戸市街は、沖から見ると静かで高いビル群が何も無かつたかのように林立している。しかし、上空には数多くのヘリコプターが舞つていた。また、普段に比べ航行船が少なく、魚船の姿も見えない。ポートアイランドから六甲アイランド付近まで進むと、自衛艦・海上保安船が行き交い、高速艇がせわしなげに往来しだした。八時四十七分、六甲アイランド東海域・神戸港第七防波堤と西宮防波堤の間・神戸東航路沖に達した。入港スタンバイを発令し、全員部署に配置後、低速で神戸東航路を北に進行した。魚崎浜町と深江浜町を結び、神戸東航路上にアーチをかける大橋がだんだん大きくなつてきた。さらに低速で大橋下をくぐり港に近づくと、あちこちの岸壁が崩れ落ち、傾き、埠頭表面が陥没している。クレーンが折れ、倒れ、貨物トラックが取り残され放置されている。九時十三分、南の深江浜町と北の神戸商船大学に囲まれた海面に錨を投下した。九時二十五分、ポートを投下し、隊長及び副隊長を神戸商船大学に送つた。引き続き、医師二名、看護婦二名を送り、医薬品を降ろした。その後、陸上と連絡を取りながら、神戸商船大学のポートの助けも受け、数回に分けて救援資材並びに救援物資を搬出した。救援隊・救援物資を搬出後、抜錨移動し、十三時四十分、神戸商船大学・船溜り外の防波堤に船尾付けとした。船溜り内の防波堤岸壁には、神戸商船大学の練習船・深江丸(四百五十ト)が係留し、本来の係留岸壁は崩れ落ちていた。救援隊は直ちに大学内に救援本

部を設置し、避難されている方々への給食を開始した。夜間、神戸商船大学関係者に風呂、シャワーを開放した。西高東低の冬型気圧配置が続き、寒い。昼間、海上では西よりの風毎秒八〜十。夜には毎秒三〜四と弱まった。晴れ後時々曇り。  
一月二十五日  
終日、防波堤に係留。陸づたいで上、下船できるので、救援隊の移動が楽になった。時間を気にせず救援活動に専念できるようだ。昨日に続き、救援本部での給食提供並びに病院での医療活動が行われた。二十三時十六分、神戸市を中心に震度四の余震があった。ドーンという音とともに船体が上下に揺れた。船体に異常無し。西高東低の冬型気圧配置。北よりの風毎秒二〜三。晴れ時々曇り。日中八度と寒さが続く。  
一月二十六日  
終日、防波堤に係留。昨日に続き、救援本部での給食提供並びに病院での医療活動が行われた。九時三十分より約一ト及び十三時三十分より約三トの清水を、本船から救援本部に提供した。  
夜間、神戸商船大学関係者に風呂、シャワーを開放した。西高東低の冬型気圧配置。晴れ時々曇り、風速毎秒二〜三。日中、気温は上がらず十度以下であった。  
一月二十七日  
終日、防波堤に係留。昨日に続き、救援本部での給食提供並びに病院での医療活動が行われた。八時より約九トの清水を本船から救援本部に提供した。  
西高東低の冬型気圧配置が続く。快晴。西よりの微風。夜間は五度以下と冷えた。夕方、学生三名が下船した。  
一月二十八日

### 阪神大震災

#### 一 思わぬところで

#### 役立った野外教育

佐賀野 健

阪神大震災救援隊の第一次隊に引き続き、第二次隊が編成されることになった。私は、登山・キャンプ実習や子どもキャンプ教室など野外教育を経験していたので、何かの役に立つかと思ひ参加することにした。また、私自身ボランティアはやったことがなかったのに、勉強のために、との思いもあった。かくして教官一名、医師二名、看護婦一名、事務官四名、学生十四名で広島大学第二次救援隊が編成された。  
一月二十七日、広島商船高専の広島丸に乗り、大学の事務の方、広島商船高専の学生に見送られ神戸に向かった。第一次隊が出航するときにはテレビ局、新聞記者もいたそうであるが、やはり次男、三男ではだめだ、との結論に達した。

私たちの任務というのは、第一次隊に引き続いて、神戸商船大学およびその寮、磯崎公園に昼食を提供することであった。昼食の提供といっても十人、二十人分ではない。一度に五百人分の食事を用意しなくてはならない。学生部所有のオリキャン用の釜三つ(汁用)、教育学部野外運動学所有の釜三つ(ごはん用)、そしてコックヘル十個(ごはん用)は大活躍であった。最初の頃はその量にびびつてはいたものの、三日目ぐらいからは各釜の担当者が出現し、その釜の責任をもつ体制が確立していた。そして「味くらべ」を演じるほど余裕をもって炊き出しをすることができ、次第に隊の志気も上がっていった。  
一月二十九日、メニューはカレー。この日は商船大学、寮で神戸市が焼き肉の提供をす

ることになつていった。そこで一日だけであるがほかの場所を探すことになった。心当たりを対策本部に尋ねたところ、商船大学から自転車で三十分ぐらいのところにある「大和公園」が候補にあがった。  
前日下見に行くと、この公園は炊き出しのボランティアも来ないところで、食事も神戸市から配給される数日前の冷たい弁当を食べているとのことであった。また、米や野菜などの救援物資も支給されてはいるが、それを料理するための道具もない状況であった。大和公園の被災者の暗く余裕のない表情は、商船大学の被災者とは違う雰囲気であつたように思う。  
当日、カレーは大盛況。一日だけの契約であつたが、「また来てくれませんか」の強い要望に、次の日は甘酒を提供した。私たちはこのようなところにこそ行くべきではなかつたのか。神戸市は大和公園の方に焼き肉を提供するべきではなかつたのか。救援の公平性、ボランティア同士の連携をいかにとるか、は重要な課題であらう。  
一月三十一日、三次隊が来ることになり、引き継ぎのため同じ院生の関谷さんと私が二次隊の一日居残り組となつた。事務的な手続きを関谷さんが、炊き出しの要領を私が引き継いだ。四日間の演習でこはんの炊き方に自信を持つていた私であつたが、これを三次隊に伝授するときに見事に大失敗。これで三次隊の方に自信を植え付けることに成功したと思われ。

神戸の街は、テレビで見ただけ以上に悲惨な状況であつた。この中で、広島大学の炊き出しは被災者の冷たい心を少しでも温めることができたのではないだろうか。それはみんなのやる気、味にこだわる料理の技術、そして重い水を運んだ体力の成果であつたように思う。思わぬところでボランティアの勉強ができ、

### 第二次隊の報告

#### 喜ばれた温かい食事

江崎 正雄

阪神大震災の被災者支援のため広島大学でもボランティアが募られ、神戸に派遣されました。その三次隊(一月三十一日から二月四日まで)に私も参加させていただきました。主な活動内容は、神戸商船大学の体育館などに避難されている被災者の方々のために、温かい食事を作つて差し上げるというものでした。  
朝夕に神戸市から配給されるのが冷たいおにぎりやパンであるということもあり、この温かい昼食(シチュー・豚汁・カレーなど)は、被災者の方々には、この昼食を作るための準備(野菜を切るなど)を手伝いに来てくださる主婦の方々も十人ほどいらっしゃいました。こういう方々を本当の意味での「ボランティア」というのでしょうか、この方たちがわいわいと景気よく野菜を刻まれているのはびっくりしました。  
話を聞くと、やはり身内で亡くなられた方がいらつしやるというのに、このように元気に振る舞つておられるのを見て人間の強さを思い知らされました。「自分たちの生活は自分たちで守つてゆくんぞ」「自分たちで神戸を復興させてゆくんぞ」という意識をまざまざと見せつけられ、心強く思いました。  
最後に、今回被災された方々に改めてお見舞い申し上げますとともに、一日も早く被災地全域が復興することを、心よりお祈りいたします。

(えさき・まさお)

### 第二次隊の報告

(えさき・まさお)

の市職員、われわれに説明をするたびに涙する病院長、七年間毎日開けていた金庫の番号が分からなくなった事務の人、三人の家族を失いながらレントゲンをとっていた技師等々、そこで働く人たちは、なにがしかの病をもっていた。  
わが国にボランティアは育たないと言った人もいる。しかし、神戸の街には、居ても立ってもいられなかった人たちがたくさんいた。病院の中には多くのボランティア看護婦の姿があり、救護所には、医院を閉めて駆けつけ

て来た開業医の姿があった。多くの学生や市民が荷物の運搬や炊き出しにあたっていた。今回の広島大学ボランティアも、学生からの強い申し出によると聞いた。阪神大震災により多くの市民が犠牲になり、街も瓦礫の山となっていたが、これを復興させるのは、こうしたボランティアの人たちとそこで生活を続けていかなければならない人たちの、人と人とのつながり以外にないと感じたのは、ひとり私だけではないと思う。

通過した。淡路島北端の各地で、シートを張つた青い屋根が見えた。明石海峡を通過後、神戸市街を左手に見ながら沿岸沿いに大阪湾を東に進んだ。神戸市街は、沖から見ると静かで高いビル群が何も無かつたかのように林立している。しかし、上空には数多くのヘリコプターが舞つていた。また、普段に比べ航行船が少なく、魚船の姿も見えない。ポートアイランドから六甲アイランド付近まで進むと、自衛艦・海上保安船が行き交い、高速艇がせわしなげに往来しだした。八時四十七分、六甲アイランド東海域・神戸港第七防波堤と西宮防波堤の間・神戸東航路沖に達した。入港スタンバイを発令し、全員部署に配置後、低速で神戸東航路を北に進行した。魚崎浜町と深江浜町を結び、神戸東航路上にアーチをかける大橋がだんだん大きくなつてきた。さらに低速で大橋下をくぐり港に近づくと、あちこちの岸壁が崩れ落ち、傾き、埠頭表面が陥没している。クレーンが折れ、倒れ、貨物トラックが取り残され放置されている。九時十三分、南の深江浜町と北の神戸商船大学に囲まれた海面に錨を投下した。九時二十五分、ポートを投下し、隊長及び副隊長を神戸商船大学に送つた。引き続き、医師二名、看護婦二名を送り、医薬品を降ろした。その後、陸上と連絡を取りながら、神戸商船大学のポートの助けも受け、数回に分けて救援資材並びに救援物資を搬出した。救援隊・救援物資を搬出後、抜錨移動し、十三時四十分、神戸商船大学・船溜り外の防波堤に船尾付けとした。船溜り内の防波堤岸壁には、神戸商船大学の練習船・深江丸(四百五十ト)が係留し、本来の係留岸壁は崩れ落ちていた。救援隊は直ちに大学内に救援本

部を設置し、避難されている方々への給食を開始した。夜間、神戸商船大学関係者に風呂、シャワーを開放した。西高東低の冬型気圧配置が続き、寒い。昼間、海上では西よりの風毎秒八〜十。夜には毎秒三〜四と弱まった。晴れ後時々曇り。  
一月二十五日  
終日、防波堤に係留。陸づたいで上、下船できるので、救援隊の移動が楽になった。時間を気にせず救援活動に専念できるようだ。昨日に続き、救援本部での給食提供並びに病院での医療活動が行われた。二十三時十六分、神戸市を中心に震度四の余震があった。ドーンという音とともに船体が上下に揺れた。船体に異常無し。西高東低の冬型気圧配置。北よりの風毎秒二〜三。晴れ時々曇り。日中八度と寒さが続く。  
一月二十六日  
終日、防波堤に係留。昨日に続き、救援本部での給食提供並びに病院での医療活動が行われた。九時三十分より約一ト及び十三時三十分より約三トの清水を、本船から救援本部に提供した。  
夜間、神戸商船大学関係者に風呂、シャワーを開放した。西高東低の冬型気圧配置。晴れ時々曇り、風速毎秒二〜三。日中、気温は上がらず十度以下であった。  
一月二十七日  
終日、防波堤に係留。昨日に続き、救援本部での給食提供並びに病院での医療活動が行われた。八時より約九トの清水を本船から救援本部に提供した。  
西高東低の冬型気圧配置が続く。快晴。西よりの微風。夜間は五度以下と冷えた。夕方、学生三名が下船した。  
一月二十八日



写真1 江崎灯台に続く石段のズレ

一九九五年一月十七日未明に発生した兵庫県南部地震は、私たち活断層研究者が心配していたことが現実になった悲劇のひとつでした。今回の都市直下地震の発生源である活断層は、現在(二月初旬)の段階ではまだその全体像が明らかにならなかったと言えない状況ですが、これまでの広島大学の調査グループの淡路島における地震断層調査を中心に、その活動状況について手短かに報告したいと思います。

### 活断層起源の内陸直下地震を予測

地震は断層運動によって発生するものです。活断層は第四紀後期(十数万年前から現在までの最近の地質時代)に繰り返し活動し、将来再活動し大きな地震を発生する可能性が高い断層で、「地震の生ける化石」ともいえるものです。

地震断層は地震を発生させた断層が地表に現れたもので、軟弱地盤や傾斜地に見られる地震動に伴う地割れとは異なり、断層特有の変位を示し、内陸直下地震では、多くの場合活断層に沿って現れます。

日本では、一九四八年の福井地震(M七・三)以来、甚大な被害を起した活断層起源

さらに、他大学の研究者とともに断層のトレンチ掘削調査を行い、この断層が、今回の地震以前にも複数回地震を発生させたことを明らかにしました。また、断層変位の詳しい様子を明らかにするために、平板測量による地震断層の百分の一の詳細図を作成するとともに、地震断層の保存の要請(現在、文化庁が天然記念物として指定する方向に進んでいる)などを短期間に行っていました。

しかし、これで私たちのグループの調査が終わったわけではありません。多くの研究者の調査にもかかわらず、神戸側ではこれまで、地震の実体は依然としてはっきりしないままです。

### 終わりの

今回の地震では、大学をはじめ多くの研究機関の研究者が、同時に同じ問題の解明に取り組んでいます。これからは、広島大学グループの調査は一体何だったのかと言われないようにさらに現地調査を進めるとともに、調査結果を早急にまとめ、今後の地震研究に貢献することができるよう努力したいと思っています。

年度末の多忙な時期にこのような調査が可能であったのは、地理学教室の諸先生をはじめ文学部教職員のかたがたのご理解の賜です。また、原田康夫学長からも、HINET上の電子メールで声援をいただきました。記してお礼を申し上げます。

(なかた・たかし)

原田学長は、今回の調査グループが、早く地震断層を発見した功績に対して、特に、教育研究学内特別経費として百万円を交付した。

## 野島断層発見のいきさつ

文学部 自然地理学講座 中田 高

の内陸直下地震が発生していないため、一般の活断層への関心がほとんどないことを憂慮して、私たち活断層研究者は、さまざまな警告を発してきました。私は、都市化地域に活断層が密集して分布する京阪神地域に最近数百年間に大きな地震が発生していないことから、次の大地震の発生する可能性が大きい地域と予測していました。

そのため、この地域の活断層と土地利用の関係を調査し、地震被害の危険性を指摘するとともに、活断層上の開発を規制する「活断層法」の制定を地理学会や地震学会で提唱してきました。また、開発の進む市街地では活断層調査が困難なため、神戸沖の海底に着目し、昨年十月に海底活断層の調査を実施しました。

### 野島断層を発見

神戸市周辺や淡路島には数多くの活断層が知られています。私たち活断層研究者は、今回の地震はこのどれかが活動した可能性が強いと考え、地震の元凶を突き止めるべく早速調査を始めました。神戸市周辺の被害が大きかったため、多くの研究者は六甲山地の南麓に分布する活断層が活動したと考え、調査に向かいました。

私はすぐに、一九九〇年のフィリピン地震の断層調査と一緒に理学部の蓬田清さんに電話をかけ、調査に同行してくれるようお

願い、文学部地理学教室の院生と学生のそれぞれ一名で小さな調査グループをつくり、現地に向かうことにしました。私たちは、壊滅的な被害で混乱する神戸市周辺は調査が困難と判断するとともに、地震の震源が淡路島の北端に位置するため、島の北西部の活断層が再活動して地震断層として地表に出ている可能性が高いと判断し、十七日夜半、車で瀬戸大橋・鳴門大橋経由で淡路島に入りました。ここでも、被害の大きかった北西岸の道路を避け東海岸を北上し、明石大橋の工事が進む島の北端部を回り、震源地域に接近しました。淡路島の北西部には野島断層という活断層があり、この北東延長部が明石海峡に延びていると考えました。したがって、これが再活動して地震を起こしたのであれば、海岸に沿う道路に被害があるはずで、地震を発生させた断層は容易に見えたと判断し、ヘッドライトに照らされる路面に目を凝らして車を

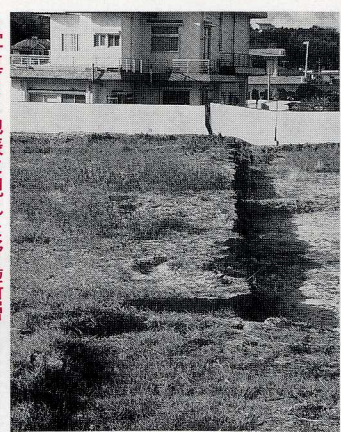


写真2 地表に現れた野島断層

地震被害の大きかった淡路島北部の北淡町に入ってから、それまでにない大きな道路の被害を見つけたため、寒い車中で仮眠し朝を待ちました。

十八日の日の出を待ちきれず、薄暗闇の中で付近を調べたところ、江崎灯台に続く石段が水平方向に一メートル以上ずれているのが見つかりました(写真1)。これが今回の地震の発生源となった断層に間違いはないと考え、東京大学地震研究所の研究仲間と連絡しました。これが、広島大学グループの地震断層発見の報道につながるようになりました。

### 今後の課題

私たちの今回の調査は、地震断層を発見することだけが目的ではありません。地震を起した断層がどこに分布し、どのように動き、どのような被害を起したかを調べることによって、今回の地震の特徴を知り、今後の地震発生の予測や地震被害の軽減のための基礎資料を得ることです。地震断層発見後は野山を歩き断層線を追跡し、断層の詳しい分布図を作り、断層変位量を測りました。地震断層はいくつかのセグメントからなり、それぞれの中央部で変位量が大きくなる特徴があります。これによって、断層からどのような地震波が発生したかを知らうとしているのです。

地震断層と被害の関係についても調査し、断層の上にあった建物はどうなのものでも被害を免れることはできなかったけれども、堅牢な建物は断層からわずかに離れていただけで被害を免れており、私がかねてより主張している活断層の開発を規制する「活断層法」が必要なことを再確認しました(写真2)。

### 被害状況

区 分	人 的		住 居 等	
	死亡	負傷	全壊	半壊 一部破損
学 生	4	2	21	45
教職員	1	17	5	5
計	5	19	26	50
家族	1	17	5	5
本人	4	2	102	19
計	5	19	107	24

### 支援状況

#### (一)人的支援

月 日	派遣人員	派遣場所
1月22日(日)~1月25日(水)	医師1名	検死(兵庫県警)
1月23日(月)~1月29日(日)	医師2名	神戸大病院
1月27日(木)~2月1日(水)	看護婦2名	神戸商船大
1月31日(火)~2月7日(火)	看護婦1名	厚生省医療支援派遣団
1月31日(火)~2月4日(木)	看護婦3名	神戸商船大
2月4日(木)~2月8日(日)	看護婦2名	神戸商船大
2月8日(日)~2月12日(木)	看護婦2名	神戸商船大
2月12日(木)~2月16日(日)	看護婦2名	神戸商船大
2月17日(日)~2月25日(日)	看護婦2名	「広島大学臨時診療所」を開設

#### (二)物的支援

月 日	支 援 物 資	輸 送 手 段
1月19日(日)~1月20日(日)	缶詰(二四〇個)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	水(18リットル×20本)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月29日(日)	食事の提供(カレー1千人分)	練習船「豊潮丸」(320ト)
1月23日(木)~1月26日(日)	等 生理用品(500人分)	トラック(10ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	トイレトベーパー(500人分)	マイクバス1
1月23日(木)~1月24日(金)	水(18リットル×100本)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	果物(みかん・バナナ・林檎)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	他	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	医薬品(16種) 医療材料	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	インスタント食品六千個	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	果物(みかん20箱・林檎20箱)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	生理用品(千人分)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	清掃用品(タワシ・モップ)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	夕食(60食) お茶(600缶)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	水(18リットル×100本)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	カップ味噌汁(20個) 他	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	食器類(皿、コップ等)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	夕食(70食) お茶(70缶)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	カップ味噌汁(70個)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	みかん(10箱×5箱)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	食事の提供(カレー1箱)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	みかん(15箱×1箱)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	林檎(20箱×1箱)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	医薬品	トラック(2ト車)1

#### (三)炊き出し

月 日	支 援 物 資	輸 送 手 段
1月23日(日)~1月29日(日)	事務官2名	神戸商船大
1月27日(木)~2月1日(水)	学生16名	神戸商船大
1月27日(木)~2月1日(水)	教官1名	神戸商船大
1月27日(木)~2月1日(水)	事務官4名	神戸商船大
1月27日(木)~2月1日(水)	学生14名	神戸商船大
1月27日(木)~2月1日(水)	事務官6名	神戸商船大
1月27日(木)~2月1日(水)	学生1名	神戸商船大

#### (四)その他

月 日	支 援 物 資	輸 送 手 段
2月6日(日)~2月12日(日)	附属 高校生3名	神戸市中央区役所
2月9日(木)~2月11日(土)	附属 高校生7名	東灘区御影公園

#### (五)義援金の募金

月 日	支 援 物 資	輸 送 手 段
1月19日(日)~1月20日(日)	缶詰(二四〇個)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	水(18リットル×20本)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月29日(日)	食事の提供(カレー1千人分)	練習船「豊潮丸」(320ト)
1月23日(木)~1月26日(日)	等 生理用品(500人分)	トラック(10ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	トイレトベーパー(500人分)	マイクバス1
1月23日(木)~1月24日(金)	水(18リットル×100本)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	果物(みかん・バナナ・林檎)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	他	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	医薬品(16種) 医療材料	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	インスタント食品六千個	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	果物(みかん20箱・林檎20箱)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	生理用品(千人分)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	清掃用品(タワシ・モップ)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	夕食(60食) お茶(600缶)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	水(18リットル×100本)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	カップ味噌汁(20個) 他	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	食器類(皿、コップ等)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	夕食(70食) お茶(70缶)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	カップ味噌汁(70個)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	みかん(10箱×5箱)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	食事の提供(カレー1箱)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	みかん(15箱×1箱)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	林檎(20箱×1箱)	トラック(2ト車)1
1月23日(木)~1月24日(金)	医薬品	トラック(2ト車)1

①教職員及び学生の募金活動(六三三万円)  
②体育会学生が中国新聞社を通じて寄付(四十万円)  
③赤十字学生奉仕団

(二月十三日現在)